

Contents

- 2 総長メッセージ
- 3 数字で見る京都大学
- 5 世界に輝く研究大学を目指して
- 7 ガバナンス
- 9 教育
- 11 研究
- 13 共創
- 15 DEIB
- 17 グローバル展開
- 18 医学部附属病院
- 19 課外活動
- 21 財務情報
- 25 同窓会・基金



総長メッセージ

～京都大学の原点に立ち返り、研究大学としてのあり方を問い直す～

「自由の学風」のもとに

大学の使命は、新しい知的価値の創生とそれを担っていく人材育成を通じて公共の利益に資することにあります。本学は、「地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを基本理念として、「自由の学風」のもと、125年余の教育と研究の歴史を刻んできました。

平成29年には文部科学大臣による指定国立大学法人の指定を受け、「自由で独創的な知の創造を支える柔軟な研究組織体制」、「次世代を担う若手研究者の育成と若い頭脳の国際循環」、「新しい人文・社会科学の創出と社会への積極的な発信」、「ボトムアップの議論に基づく実効的の大学運営と財政基盤の強化」の四つの大きな目標を掲げ、その具体化に向けてさまざまな施策を推進しています。

令和2年に第27代総長に就任した私は、真に足腰の強い研究大学を目指し、組織のインフラの強化と改革を進めるための具体的施策として、「任期中の基本方針—世界に輝く研究大学を目指して—」を公表しました。これを着実に実行していくことにより、本学の教育と研究の誇るべき伝統を未来に向けて確実に発展させていく覚悟を新たにしています。

京都の地で

「九重に花ぞ匂へる 千年の京に在りて」、京都大学学歌の冒頭の句です。

京都大学は、明治30(1897)年、「政治の中心から離れた京都の地に、自由で新鮮なそして本当に真理を探求し学問を研究する学府としての大学を作ろう」という機運の中で、歴史と伝統の地であるこの京都に創立されました。豊かな自然と文化芸術に恵まれた京都は、バンチャー発祥の地でもあり、その研究成果で全国的・世界的に貢献する数多くの革新的企業が誕生し発展してきました。このアントレプレナーシップの伝統は今も強く息づいており、学生や研究者にとっても非常に貴重で重要なアドバンテージだと言えます。

私達は、この京都の地で地域の皆様と共にあり、地球社会の調和ある共存に向けて一層貢献してまいります。

最後に

この『京都大学アニュアルレポート2025』では、「任期中の基本方針」に沿った取組と実績を詳しく紹介し、また、大学運営の基盤となる財務情報も掲載しています。大学の理念や歴史、基本的な方針、注力している取組や、学生・研究者の活動等を幅広く紹介し、さまざまな基本データも掲載している『京都大学概要2025』と併せてご覧いただけますと、京都大学の魅力をより知っていただけるかと存じます。

日頃本学の活動をご支援いただいている皆様におかれましては、本学の目標とその達成に向けた取組をご理解いただき、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和7年9月
京都大学総長

漆長博

京都大学下鴨休影荘(しもがもきゅうえいそう)

日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が晩年を過ごされた旧宅で、長谷工コーポレーションから2021年に寄附を受けていましたが、設計・工事監理を安藤忠雄建築研究所、施工を長谷工コーポレーショングループにて整備して、改めて2024年に本学に寄贈いただきました。施設名称は湯川博士が好まれた文字を冠し「下鴨休影荘」としました。晩年の湯川博士の私生活に触れられる希少価値と、安藤建築としての高い魅力を兼ね備えた、他施設とは一線を画す格式高い施設となっています。